

理科・環境教育助成 成果報告

第3回 期間：2005年11月～2006年10月

氏名 今井 龍彦

所属 横浜市立矢向小学校

課題名 ホタル飼育を中心とした地域・学校の共同

1. 課題の主旨

本校はホタルの飼育を始めて6年経過している。児童の委員会を中心にして活動してきている。6回目を迎えたホタル鑑賞会も地域の人々にとって楽しみにされている。この取組を長く続けていくためにもホタル池を再整備し、自然の少ないこの地域の人々と児童とのふれ合いの場とし、人々と共に自然のすばらしさを共有してもらうことを目的とした。また、ホタル池をビオトープ池に改修をすることで理科教育の教材として水辺の昆虫や小動物、植物などの観察に役立て本校の子どもたちが自然環境に興味を持ち、大切にしていこうとする態度を養っていききたい。

2. 活動状況

○ホタル飼育関係の取組

- ①平成17年9月～平成18年4月まで、写真のような教室で、ホタルの幼虫を飼育します。子どもたちが温度管理・幼虫の成長に合わせてえさのカワニナをペンチで砕き、小さくして与えています。



- ②完成したビオトープ池に成長したホタルの幼虫を放します。1年2年生が中心です。7月19日





③6月の3日間(今年度は8日、9日、10日)、ホタル鑑賞会を開いています。地域の方が約千人位鑑賞にきてくださいました。その折、地域の方が篠笛、オカリナの演奏をてくさいます。

④鑑賞会終了と共に来年に向けてホタルの幼虫の飼育が、ホタル部屋で始まります。

⑤10月初旬に、初めて鶴見区の小学校の児童が訪れて、交流会を行いました。



○その他

ビオトープ池には、メダカ、カエルも放しています。カエルは産卵時期になるといっばいきて、卵を産みます。小さな水田を同時に作りましたので、この地域では見られないモノアライガイ、サカマキガイ、ヒメタニシなどが繁殖するものと思います。今年はトンボもたくさんきていたので卵も産んでいると思われる。



3. 結果

- ・ホタル鑑賞会では、地域の方たちも鑑賞するだけでなく、飼育にも参加し子どもたちと一緒に運営に携わってくれるようになった。
- ・ホタルだけでなくいろいろな生き物に関心をもつきっかけになった
- ・小動物だけでなく、植物にも関心をもって育てるようになってきている。

4. 今後の課題と発展

- ・来年になるともっとたくさんの小動物、植物が増えてくると思われる。子どもたちにとってこのビオトープ池を中心にしたホタル、メダカ、カエルの飼育観察から、校内全体の観察へと発展し、自然の力や環境の変化へと目を向くようにさせたい。
- ・ビオトープ池を中心とした教材化をはかっていくことで、児童の自然環境に対する姿勢もより積極的になれると考える。